

施策コード 27	施策名 文化芸術の振興	政策名 地育力によるこころ豊かな人づくり
施策区分	主管部等名 教育委員会	施策主管課 文化会館
重点施策	課長名 飯島 剛	内線 4220
	施策関係課 生涯学習・スポーツ課・美術博物館・中央図書館・公民館	

1. 施策の目的と成果指標

二段表記の下段数値は旧2村分

施策の対象	対象指標	単位	16年度	17年度	18年度	19年度	23年度見込
市民	住民人口	人	106,835 2,963	108,624	107,844	107,259	107,000
施策の意図 いつでも誰でもどこでも気軽に親しむ 自己表現の機会が得られる 文化活動を主体的に担う の意図は、「日常的に文化芸術に親しむこと」と定義する。	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(減らす)。	%	-	64.8	-	66.5	50
	文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数	人	7,047	7,052	6,784	7,247	8,500
成果指標設定の考え方	施策の意図を達成するためには文化芸術に無縁な(自覚のない)人の数を減らすこと。文化創造活動に主体的に関わっている人の数を増やすこと。						
成果指標の把握方法(算定式など)	市民意識調査:問7-1 文化芸術の活動をどの程度行なっていますか 選択肢の「週に2回以上 2.7%」「週に1回程度 8.2%」「月に1回程度 9.0%」「年に数回程度 6.5%」「ほとんど行っていない」64.8% 無回答 8.9%の「を選択する割合(の数字)を減らす。 行政データまたはNPOデータ 文化芸術系社会教育団体の代表者の数、伊那谷文化芸術祭、人形劇フェスタ、アフィニスセミナー、文化会館自主事業、人形劇定期公演事業などに実行委員として参加している市民の人数、市民劇場、親子劇場など市内の文化芸術系市民団体のリーダーの数、人形浄瑠璃や霜月祭りなど、伝統芸能の伝承にかかわる人の数、公民館文化委員数、図書館活動団体の代表者の数。						
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)	<p>< 成果指標 > 今後の推移としては、高齢者ほど文化芸術活動を行う人の割合が高いため、高齢者が増えると文化芸術活動を行う人が今より高くなるのが想定される。国の調査(文化に関する世論調査・平成15年11月調査)では、文化芸術活動(舞台やホール芸術等を鑑賞する)に無縁な国民の割合は48%と結果が出ており、豊かでゆとりある文化的な生活を維持するためには、文化芸術活動に無縁な生活を送っている人の割合を5割まで減少させることを目標とする。</p> <p>< 成果指標 > 今後の推移としては、文化創造活動に主体的に関わっている市民の数は、現状人口の6.5%の割合なので、人口から推計して6.5%が維持されると7,000人と想定される。人口は減少するものの、文化に対する価値観が多様化することで文化活動に主体的に関わっている市民の数が増加することを見込み、住民人口の8%を目標とする。</p> <p>< 前提条件 > 上記の目標を達成するための前提条件としては、物質的な充足だけではなく文化芸術を通じた精神的充実が必要であり、年齢・性別・ライフスタイルなどを踏まえた的確な住民ニーズの把握と、市民自ら行なう実行委員会方式の強化とメンバーの新陳代謝の促進が挙げられる。また、様々な文化芸術活動に親しむためにも、文化関係施設の環境整備が必要である。</p>						

2. 施策を担う主体

主体	施策の成果向上に向けた主体別の役割分担	ムトス指標と把握方法(把握方法と単位をカッコ書きする)	19年度実績	23年度目標
行政 市(国・県)	文化活動や創作活動を支援する。 文化活動や創作活動を担うリーダーを育成する。	公共施設延べ利用者数(文化会館・竹田人形館・黒田人形浄瑠璃伝承館・今田人形の館・市公民館・地区公民館・美術博物館 単位:人)まちなか観光による増加を加味した文化活動や創作活動を支援した団体数(文化系社会教育団体、施設利用減免団体、その他育成団体 単位:団体)人口動向を案案し横道いと判断	564,748人 682団体	610,000人 700団体
市民等 個人 団体	文化芸術を楽しむ。 文化活動や創作活動に参加する、発表する。 文化活動や創作活動を企画する。 参加者を募る。	活動に参加した市民の割合 活動に主体的に関わった市民の数	現段階は、行政の役割のみ数値設定	

3. 施策の成果達成度の分析

(1) 施策の成果達成度とその考察	
平成19年度の実績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 18年度と比べて成果が向上した <input type="checkbox"/> 18年度と比べて成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 18年度と比べて成果は低下した
平成23年度の目標達成見込み(H19実績からのH23目標達成見込み評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状(20年度)の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状(20年度)の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい
成果指標の達成度の考察	市民意識調査の結果は文化芸術活動に無縁な人の割合が増えているが、施策の意図は主体的活動を重視していることから、の指標が増加したことは成果が向上していると言える。 20年度はフェスタ10周年やアフィニス夏の音楽祭を引き継ぐ新しい音楽祭の準備などがあり、今まで以上に市民の主体的な参加と協働を促す機会となる。こうしたことを含め、目標は達成できると考える。
成果指標の達成度の考察	成果指標の構成要素のなかでは、「伊那谷文化芸術祭参加者数」と「いい大人形劇フェスタスタッフ人数」および「社会教育関係団体登録数」が大きな比重を占めており、それぞれ、217人、50人、77団体と前年より増加している。また、ムトス指標を考慮すれば、市民の文化芸術団体が主催する舞台発表や作品発表の取り組みは増えてきている状況もあり、市民は自らの文化芸術活動の成果を発表する場を求めていることがうかがえる。一方、市民が文化芸術に触れる形態としては鑑賞が圧倒的に多いが、その機会を提供する事業は官民によって数多く行われており、現実にはかなり多くの市民が文化芸術に親しんでいると考えられる。

施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	いいだ人形劇フェスタ開催事業 アフィニス夏の音楽祭開催事業 市制70周年記念特別展「絵画のなかの物語」開催事業	施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
新規事業	事務事業一覧表を参照のこと。事業名欄に【新規】と記載がある事務事業が該当		
事務事業全体の振り返り(総括)	<p>成果指標の達成度の考察で見たとおり、芸術文化に親しむ機会を利活用している市民は相当数に上っていることがうかがえる。</p> <p>「飯田市文化芸術振興基本方針」を策定したことにより、今後の施策展開の考え方が示された。</p> <p>市制施行70周年記念事業においては、本市の文化芸術的資産を活用できた。</p> <p>活動支援の向上が求められている市民主体型事業においては、施設利用減免制度の適切な運用や市民と協働の事業展開を行い、そのニーズに応える努力をしてきた。</p> <p>鑑賞型の事業においては、民間が行うものとの重複を避けながら、市民の要望を反映できる事業実施体制を整え、受益者負担の軽減を図りながら、機会の拡充に努めた。その結果、個々の事業においても概ね目標とした参加者数を確保でき、事業目的を達成できたと言える。しかし、継続的な事業においては、まだその成果を向上させる余地はある。</p>		
(3)主体別の役割分担の発揮状況(19年度の振り返り)			
<p>市は、概ねその役割を果たしているといえる。</p> <p>市民は、それぞれの欲求に応じて、文化芸術活動に参加していると言える。</p> <p>市民団体は、その設置目的に従って活動をしていると言えるが、積極的に文化創造に取り組む団体と同好会的な団体とがある。</p>			

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?	<p>文化芸術振興法により文化芸術に対する行政の責務を明確化した。</p> <p>文化芸術に対する価値観が多様化してきている。</p> <p>少子高齢化が進行している。</p> <p>文化芸術へのニーズが多様化してきている一方、少子高齢化による担い手、享受者の減少や人口構成の変化が進行している。</p> <p>飯田市は、19年度に文化芸術振興法に基づき「文化芸術振興基本方針」を策定した。</p> <p>2008年、いいだ人形劇フェスタは10周年(前身の人形劇カーニバルから30周年)を迎え、世界人形劇フェスティバルが開催される。</p> <p>2008年、クラシック音楽の普及に貢献してきた「アフィニス夏の音楽祭」が20回を迎え、飯田市での最後の開催となる。</p> <p>2008年、飯田市美術博物館が開館20周年を迎える。</p> <p>2008年、市長が3月市議会において、より市民主体の活動を活発にできる方向で文化施設の管理運営体制のあり方を検討するという方針を表明した。</p>
この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	<p>市民から「文化経済自立都市」の文化とは何かとの質問が寄せられている。</p> <p>議会から「文化芸術活動を大切にすべき」との意見や要望がある。</p> <p>市民から「アフィニス夏の音楽祭が地域に貢献したことを評価し、それに替わる事業を行いたい」という意見が出されている。</p> <p>世界人形劇フェスティバルに対して期待と関心が高まっている。</p>

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<p>年齢、性別、ライフスタイルなどに応じた文化芸術活動、文化創造活動の場(機会)の提供が必要である。</p> <p>そのためにも文化関係施設の環境整備も必要となる。</p> <p>年齢、性別、ライフスタイルなどに応じて、文化芸術への接し方も多様化しており、それに応じた機会や場の拡充が求められている。</p> <p>そのため、芸術体験型やジャンルや団体、プロとアマといった枠を越えて文化芸術活動を行うコラボレーション型などの取り組みが増えてきており、そうした取り組みを振興(支援、促進、拡充)していく必要がある。</p> <p>場の提供(施設貸与)は飽和状態になってきつつあり、文化関係施設の環境整備や社会教育関係団体登録制度の運用の改善が必要となっている。</p> <p>20回で開催地が移転する「アフィニス夏の音楽祭」に替わるクラシック音楽の事業を起こしていく必要がある。</p> <p>文化施設の管理運営体制のあり方について、20年度中に一定の結論が得られるように検討する必要がある。</p>
--

6. 施策の事業(一般会計及び一部特別会計を含む)

	19年度決算見込み	20年度決算	21年度決算	22年度決算	23年度決算
施策事業費(人件費を除く)(千円)	208,223				
関連する事務事業の数(事業)	20				

7. 21年度の施策展開の方向(施策の成果目標達成に向けて21年度から何に取り組んでいくか等)

<p>文化芸術振興方針に即した施策の展開</p> <p>より市民のニーズに即した鑑賞型事業の実施</p> <p>コラボレーション型文化芸術活動の振興(プロとアマが共同して行う活動、ジャンルの枠を越えた創造活動など)</p> <p>文化芸術活動の場の確保</p> <p>20年度において検討し結論を得る文化施設の管理運営体制のあり方に即した見直しの実施</p>

8. 指摘事項

政策評価会議	<p>施策の意図は、文化芸術に親しむことになっているが、この成果指標として市民意識調査では、文化芸術活動を行なっている程度について聞いている。市民が文化芸術に親しんでいる状況の把握方法としては、調査結果は、必ずしも実態を把握していないのではないかと。</p>
--------	---